

	現状及び問題 (現状と目標との差異、困った事柄)	課題 (問題を解決するためになすべきこと)	対策の方向性 (課題を克服するために必要な行動内容)
(1) 病院と診療所との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○逆紹介率が紹介率ほど高くない入院医療機関もある ○急性期病院と回復期病院、かかりつけ医との顔の見える関係が十分できていない ○専門病院とかかりつけ医の間で、十分連携ができていない場合あり(複数の医師にかかっている場合など、知らない間に薬が増えている等) ○お薬手帳が活用されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ○患者の逆紹介の円滑化 ○病院医師とかかりつけ医との連携体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○病診連携促進のための地域連携パスなどのシートの活用 ○お薬手帳の活用によるかかりつけ医と専門病院との連携促進
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">かかりつけ医等の定着・促進</p> <p>(2) 市民の意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○かかりつけ医を持つ意義や医療機関の機能分化・連携についての理解がない ○大病院志向のある方の存在 ○健康への無関心者、生活習慣病等の放置者、かかりつけ医のいない患者の存在 ●医療機関に役割分担があることの認知度51.7% ●かかりつけ医がいる割合55.3% ●かかりつけ医がある人の7割が市内の診療所にかかりつけ医を持っているが、病気になった時に、場合によっては選定療養費を払っても大規模病院にかかると考えている人が多い ●大病院をかかりつけ医としている人の理由は、高度な機器での検査やたくさんの診療科があるからなどの大規模病院特有の理由ではなく、前から診てもらっているからという理由が一番多い(58.9%) ●かかりつけ薬局を決めている割合38.2% かかりつけ薬局を決めていない理由として、かかった医療機関の近くの薬局に行く方が便利という理由が一番多い(69.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○かかりつけ医を持つことの意義や医療機関の機能分化・連携についての理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○適正な病床機能やかかりつけ医制度等について、行政及び各機関主催の市民啓発の実施 ○お薬手帳を活用した市民啓発